進路指導部便り

令和７年６月 20 日
第３号
東京都立七生特別支援学校長
黒澤　一慶

本格的な梅雨入りを迎え、じめじめとした湿気の高い日が続いたり、晴れた日は気温が高くなったりと、天気の移り変わりの多い日が続いています。気温の変動や湿度の高さには十分に注意し、梅雨や暑さに負けずに過ごしましょう。

今回の進路指導部便りでは、「高等部３年生の現場実習の報告」、「校内実習の様子」、「卒業生の事例紹介」を掲載しております。事例紹介は保護者の方からのニーズも多くありましたので、不定期にはなりますが、継続して掲載していきます。御覧ください。

進路を決める実習～高等部３年現場実習の報告～

高等部 3 年生の現場実習の目標は、『決める』です。卒業後に希望している進路先での実習を行っています。３年生での現場実習先（希望の進路先）を決めるために、これまで家庭や寮では様々な方法で「自己決定」を支えていただきました。体験後には振り返りを行い、それぞれが合う環境や、仕事内容、やりたいことなどを一緒に考えてきました。課題については、学校と家庭や寮において改善方法や支援方法を考え、実践してきました。１年生の時からコツコツと努力を積み重ねてきた、その経験一つ一つが３年生の『決める』実習につながっていると思います。一方で３年生での実習先を決める際は、事業所の空き状況や採用計画の有無など、多くの条件を含めて選択する必要があります。福祉事業所や企業からは、御本人の様子のほかに、福祉事業所や企業の立場で、「うちの事業所の仕事や活動に合う方か」、「今いるスタッフや利用者と合う方か」などという視点が加わります。保護者会や面談でも説明いたしますが、個別で御相談されたい方は、進路個別面談などを活用し、進路担当に御相談ください。

校内で働く体験～高等部３年校内実習の様子～

高等部３年生は、５月 26 日（月）から６月６日（金）まで、校内実習を実施しました。地域の福祉事業所から受注作業の提供を受けたり、校内から仕事の依頼を受けたりして、働く体験をしました。現場実習前の生徒は実習に向けた気持ちをつくり、現場実習後の生徒は実習での課題を意識して取り組みました。また、昼休みは現場実習での休憩時間を想定し、「クラスで静かに過ごす」時間を設定して実践しました。

校内の仕事では、特別教室や駐輪場など普段手の行き届きにくい場所の清掃、部活・体育で使用するゼッケンや作業班で使用した軍手の洗濯などを行いました。

地域の事業所様からは以下の作業の提供をしていただきました。御協力下さいました事業所様に感謝いたします。

①七生福祉園：智剣（竹磨き）　②ふらっと・すずかけ：石鹸けずり　③日野市社会福祉協議会：車椅子清掃

進路指導個別面談のお知らせ

７月も、進路指導主任及び進路専任による進路個別相談日を設けています。児童・生徒の進路に関する悩みごとや相談ごとについて、保護者、七生福祉園職員の方が相談できる機会です。どうぞ、お気軽にお申し込みください。時間は１回につき４０分程度です。**７月の相談日は 16 日(水)**です。相談を希望される方は、下記の申し込み票を御記入の上、**6月 30 日（月）**までに担任へ御提出ください。各日、６人までの制限がありますので、申し込み多数の場合は、調整させていただきます。あらかじめ御了承ください。

----------きりとり----------

〈　進路個別相談　申し込み票　〉　　令和７年　　月　　日

７月 16 日(水)の進路個別相談に申し込みます。

（小・中・高）＿＿＿年＿＿＿組　　児童・生徒名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

保護者・担当者名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご希望の相談時間　①9:30～　②10:30～　③11:30～

第１希望＿＿＿＿＿　第２希望＿＿＿＿＿　第３希望＿＿＿＿＿

家庭・寮　→　担任　→　進路指導部

実習での課題と向き合った事例（企業編）

（過去の事例より）

生徒Ａさん

【生徒の実態】

〇自分で決めたやりたい仕事がある。（自動車関連の仕事をしたいという強い希望）
〇活動や作業がはっきりしていると、集中力を持続させることができる。
〇困った時に自分から発信することが難しい。
〇学校での生活態度が安定しない。（授業への参加の仕方、友達との協力姿勢など）

【実習経験】

１回目　１年生　企業Ａ（本人から希望があった業種）
２回目　２年生　企業Ｂ（本人から具体的に希望があった企業）
３回目　３年生　企業Ｂ

【２回目の企業からの課題】

〇姿勢が崩れることが多い。
〇指示の内容を忘れることがある。また、質問ができない。
いずれも「やる気がない」と受け取られてしまい、「ここで働きたいと思っていないのでは」という評価を受け取った。

【学校での取り組み】

〇姿勢の崩れに対して
①作業学習において同じような場面になっている時に動画を撮り、どのように見えるか本人と確認を行った。
②どのような場面で姿勢が崩れるかを観察し、本人の聞き取りを行った。

〇指示忘れ、質問ができないことに対して
①質問しなかったらどうなるかを一緒に考えた。
②メモの取り方を練習した。学級や作業学習場面において質問をする場面を多く設けた。質問する時の言葉掛けや、質問の仕方を練習した。

【改善】

〇姿勢の崩れに対して
①動画を見て、姿勢が崩れると「さぼっているように見える」ということに気付き、姿勢に気を付けたいという意識が生まれた。
②少しでも時間が空くと姿勢が崩れる場面が多かったため、担当者の方と相談し、作業が多い部署に変更していただいた。

〇指示忘れ、質問ができないことに対して
①分からないことをそのままにすると、みんなが困るということが分かり、分からないことをそのままにしてはいけないという意識ができた。
②メモを取ろうとする場面が増えた。質問できる場面が増えた。

本人としては、やる気をもって臨んでいたため、「やる気がない」と見られたことに、非常に驚いていた。
本人の意識だけではなく、客観的にどう見えるのかなどを動画で確認したり一緒に考えたりすることで、自分自身で、具体的な改善策を考えることができた。そしてなにより、本人の「自動車関係の仕事をしたい」という強い思いが、学校生活の態度を改めようとする意識の改革につながった。全て改善するまでには至らなかったが、その後の３年生の実習において本人の改善しようとしている意識や努力が職場の方達に伝わり、採用選考を経て採用につながった。